

(2010.2.6) 発行国絵図研究会 〒310-8512 水戸市文京2丁目1-1 茨城大学教育学部
小野寺研究室 Tel & fax 029-228-829

国絵図ニュース 25号

第27回 国絵図研究会 開催のご案内

今回の国絵図研究会は、下記のように開催することになりました。皆様のご参加をお待ち申し上げます。また、同封の用紙の通り、国絵図研究会の名簿・継続・退会などの問い合わせを行います。同封の葉書に必ずお書き込みの上ご返送ください。

2010年3月8日(月) 明治大学博物館所蔵の国絵図類の熟覧

JR 中央線、御茶ノ水駅、橋口下車、徒歩5分、明治大学アカデミーコモン地階

閲覧・調査時間：10時から16時半まで (9時55分には博物館玄関前にお越しください)

(科研関係者は調査打ち合わせのため、9時に御茶ノ水駅、聖橋口下車、改札目の前の新御茶ノ水ビルB1「エクセルシオールカフェ新御茶ノ水店」に集合)

3月9日(火) 「ライデン大学所蔵シーボルト収集の国絵図」研究成果公開報告会

(主催：科学研究費基盤研究(B)「ライデン大学所蔵シーボルト国絵図の地図史研究」、

共催：国絵図研究会、基盤研究(A)「地図史料学の構築」の新展開)

9時半から12時半まで 東京大学本郷キャンパス福武ホールB1、史料編纂所大会議室
(東大赤門入って左手のコミュニティセンター隣の、UTcafeの入っている建物の地下一階です)(科研関係者は9時に集合)

研究成果公開報告会プログラム

9:30~10:00 小野寺 淳(茨城大学) ライデン大学所蔵シーボルト収集国絵図の研究概要

10:00~11:00 倉地 克直(岡山大学) ライデン大学所蔵の備前国・備中国絵図について

11:00~12:00 川村 博忠 ライデン大学所蔵「隠岐国絵図」の考察-国内現存図との比較を通して-

12:00~12:30 ディスカッション 司会：杉本 史子(東京大学)

.....

なお、9日午後には同一会場で、基盤研究(A)「地図史料学の構築」の新展開による、下記の<国絵図復元プログラム>の打ち合わせ会が開催されます。※国絵図復元プログラムは、4ページ目の説明をご参照ください。どなたでもご参加できます。

参加を希望される方は、8・9日午前とあわせ、小野寺 (onodera@mx.ibaraki.ac.jp) (FAX:0292288294) までおしらせください。

3月9日午後 国絵図復元研究打ち合わせ「制作手順についての最終検討」

(於・東京大学福武ホール・史料編纂所大会議室)

進行：荒井 経(東京藝術大学)

13:30~14:10 作成説明(プリント配布とサンプル)

14:10~14:40 梅田 千尋「仮・文字史料からみた国絵図作成と絵師」

14:40~15:30 意見交換

参加の申し込みは、同封ハガキで2月20日までに返送して下さい。

ライデン大学図書館蔵シーボルト収集国絵図のうち河内国絵図

三好唯義（神戸市立博物館）

ライデン大学図書館所蔵の河内国絵図について、画像資料から見た印象を述べてみたい。

資料は折りたたまれた上で、帙に収められている。画像で見る限りでは、折りたたんだ際に表に出る表紙も含めて、帙など表装部分は河内国図以外の他の国絵図とも似通っている感じがする。もし同一人の手になるものであるならば、一塊の国絵図群・コレクションの模写ということで重要な意味を持つだろう。ただし、模写された中身の内容や紙質などは同一とも見えず、多数の模写描画者によって為されたと考えた方が良さそうである。

河内国絵図が収められた帙には、「No. (oの下に二重線) 260」のラベルシールが附されている。帙は革装(?)で、緑の綴じ紐が付いている。これが、シーボルトが持ち帰ったおりの原装かどうかは判断できないが、持ち出す前の日本国内での表装というよりは、ライデン大学図書館が後の時代に、整理する際に行ったものと考えたほうが良いのではないか。

河内国絵図が折りたたまれた際に出る表紙部分は、青色の表紙が附されており、題簽が貼り紙されている。その情報を記載すると、以下のとおりである。

①題簽 「I 64 河内國繪圖 kawatsi」

②ラベルシール 「No. (oの下に二重線) 260.」

また、図を広げた際に方位文字「北」の近くに、「河内國繪圖」の大きく堂々とした文字が紙を透けて裏側に見えるが、この図が持つ本来の表紙タイトルではないだろうか。とするならば青色の表紙は後日のもの、オランダに渡ってから仕立てられたものであるということになる。

法量は「3 (名称) Kawatsi 河内国 (推定年代) 正保 (法量cm) 136×275」と紹介されている(小野寺淳「シーボルトが収集した手書きの江戸幕府撰国絵図 ライデン大学所蔵シーボルトコレクションより」『地理』54-4、2009年)。

画面で見る限りでは、描画されている文字や線、一里山マークの黒点などは上手な画者の手になるものとは思えず、また紙や顔料も上質のものとは見えなかった。実物を見ずに不遜ではあるが、全体的な印象としてはやや雑な河内国絵図の模写図であり、それをシーボルトが獲得し持ち帰ったものと思われる。

河内国絵図内部の各郡は、その名称と総石高が記されると共に四角枠で囲まれている。さらに郡別に色分けが決められ、その色で村名が記された小判形も同一の色で着彩されているように見える。村形は小判型(楕円形)であり村名は記されるが、そのみで村高の数値は記載されていない。これに対しては、もともと無かった、あるいはあったが模写されなかった、という可能性がもちろん考えられる。ただ、あくまでも印象だけでいうならば、村名のみで村高が僅かにも見られないこと、四角枠に郡名と石高記載があることなど、どちらかといえば刊行図となった国絵図を見るような気分が残った。

ただ注目される点としては、河内国の内部から隣国地へと延びる道筋には、その先の隣国地の名称や里程などが詳しく記されている。その文字は図中の文字を書いた人物とは別人と思われるような、しっかりとしたものであると思った。さらにはその交通情報も数多く、たとえば臼杵市所蔵の正保河内国図と呼ばれる図と比較しても、本図の方が記載量が多い。今後はこれらの情報を読み取ることによって、その図が有する資料的価値も明らかになると期待される。

郡付は四角枠で囲まれ、そこには郡名と郡高が記載されている。正保国絵図では郡付の枠がないことが普通だが、そのことをもって本図がさらに遡る国絵図の可能性もないとはいえない。

そこに記された郡名と石高を以下に記す。ただし、石以下は不分明な郡もあるため、ここでは各郡の石までの高を報告しておく。

交野郡	高20,990石	丹北郡	高22,381石
茨田郡	高36,363石	八上郡	高11,791石
讃良郡	高10,265石	丹南郡	高18,951石
河内郡	高14,583石	志紀郡	高12,560石
高安郡	高5,667石	古市郡	高7,390石
大県郡	高4,403石	安宿部郡	高2,281石
若江郡	高34,078石	石川郡	高24,971石
渋川郡	高21,522石	錦部郡	高15,065石
		(合計	263,261石)

河内国の石高は、正保郷帳の写とみられる河内国一国村高控帳では264,952石余、延宝年間(1673-81)の河内国支配帳では269,112石余(延宝検地前)、元禄郷帳では276,329石余、元文二年(1737)の河内石高帳では291,978石余、天保郷帳では293,786石余となっている。(日本歴史地名大系28『大阪府の地名Ⅱ』765頁、1980年、平凡社)

上記に鑑みれば、本模写図に記された石高は正保国絵図であることを示しているといえるだろう。

藩主名に注目すれば、近世江戸時代の河内国は城下町がほとんど存在せず、河内国には天領および旗本領が点在し、大名としては、狭山藩の北条家、丹南藩の高木家のみがあった。そして、淀藩の稲葉家の領地も多く存在した。本図を見るならば、狭山の地には「北条久太郎屋敷」と記載され、丹南藩の高木家はその名が記されない。

北条家の北条久太郎は諱を氏宗、元和5年に生まれ貞享2年に没している。狭山藩主としての就任時期は寛永2年(1625)から寛文10年(1670)で、正保年間には藩主であったことが判る。つまり本図は正保段階での情報を示しているといえる。

このように図中の僅かな情報からではあるが、本模写図の元をたどるならば、それは幕府撰正保河内国絵図にたどり着くものと思われるのである。

江戸幕府将軍と大名の権威を象徴する国絵図を復元

—伝統的職人技術者、画家、科学者、歴史学者、地理学者のコラボレーション—

科学研究費補助金・基盤（A）「地図史科学の構築」2006・2008・同「「地図史科学の構築」の新展開」2009・2011
（研究代表者 東京大学・准教授・杉本史子）

http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/personal/fumiko/kaken2009_index.html

伊能図の陰に隠れて一般にはあまり知られてはいませんが、江戸時代には、何畳敷きに及ぶ巨大な手書き地方図（国絵図＝くにえず）が全国についてつくられ、将軍のもとに集められていました。近代以前の社会でこのような全国的な空間情報が中央に集積されていた例は、世界的にみても稀有な例と言わざるを得ません。16世紀にイタリア各地の絵図を巨大なフレスコ画で描いた、ヴァチカン美術館の「地図のギャラリー」の東洋版ともいえるかもしれません。

国絵図は、各大名が描かせた白領についての巨大な自画像であり、それを命じた将軍の権威の象徴ともいえるものです。何十枚もの和紙を張り合わせた「巨大な造形物」であり、そして、同時代の絵画以上に「色の造形物」でもあります。見落とすことのできない物的特性を備えた高度な作成技術の結晶であり、こんにちの日本画ではもはやほとんど用いられない技法もそこに投入されていた可能性を秘めています。

科学研究費補助金・基盤（A）「地図史科学の構築」同「「地図史科学の構築」の新展開」では、これまで三年間、副タイトルに掲出したような諸分野の専門家による文理融合の調査団を組み、国絵図の内容、構造、仕様についての詳細な調査を実施してきました。従来『源氏物語絵巻』や伊藤若冲などの美術品で大きな成果をあげてきた東京文化財研究所の科学的調査を絵図に初めて導入し、使用された色彩材料についてのデータも蓄積してきました。

本復元研究では、これらの原本調査の成果を前提とし、国絵図作成に駆使された技術・技法を、実際に国絵図を学術的に復元することにより、解き明かすことを目指しています。

復元研究にあたっては、制作現場の様子を公開し、また、復元現場の東京と、復元絵図（旧岡山藩池田家文庫に伝わる『元禄備前国絵図』 316.0cm×357.0cm 岡山大学附属図書館所蔵）の地元である岡山において、完成図を使った教育普及活動を行っていきたいと考えています。

制作 東京芸術大学大学院 保存修復日本画研究室

制作期間：2010年1月～（集中的制作7月末～9月末）完成予定2010年11月ころ

復元研究問い合わせ先 東京芸術大学大学院 准教授 荒井経

050-5525-2276 arai.kei@fa.geidai.ac.jp

<http://www.geidai.ac.jp/labs/hozonnihonga/>

本年度の会費を徴収します。

国絵図研究会は、皆様の会費で運営しております。ご協力ください。

一般2,000円 学生・院生1,000円です

※口座番号は00120-6-18473 加入者名国絵図研究会です。

♥常時原稿を募集いたします。メールで送っていただきますと大変助かります。■次回の研究会は、盛りだくさんです。皆様の参加をお待ちしております。

ニュース編集担当・・・磯永和貴 〒751-0807 下関市一の宮学園町2-1

東亜大学人間科学部内 電話0832-51-5177 E-mail: isonaga@toua-u.ac.jp